

糸魚川市の学校保健

糸魚川市教育研究会学校保健部

1 糸魚川市の教育方針

市は、「0歳から18歳までの子ども一貫教育方針」を策定し、「健康・心・学力のバランスのとれた子どもを育てる」「一人ひとりの個性を生かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てる」「ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子どもを育てる」「家庭・園・学校、地域が力を合わせて糸魚川の子どもを育てる」を基本理念としている。基本計画の「健やかな体の育成」では、規則正しい生活リズムの定着を課題とし、自分で自分の健康を管理できる力（ヘルスプロモーション）を身に付けることの大切さを強調している。また、市親子保健計画でも「早寝早起きおいしい朝ごはん ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」ことを目指している。

2 糸魚川市各学校での課題

児童の健康管理能力の育成

3 糸魚川市各学校での取組

各学校の取組を概観すると、主に次の3点がいえる。

(1) 中学校区を単位とした取組

- ①市内4中学校区とも小中連携して取り組んでいるが、能生中学校区では、能生地域学校保健委員会を結成し、地域ぐるみで「健やかな心と身体をつくるメディアコントロール」をテーマに設定して、課題解決に取り組んでいる。
- ②青海地域養護教諭連絡協議会、糸魚川東中学校区養護教諭連絡協議会等で中学校と連携した取組を行っている学校が多い。市振小学校では、小学生のうちに身に付けたい力・習慣を明確にし、その定着等に向けて取り組んでいる。

(2) 家庭と連携した取組

- ①磯部小学校では、生活リズムの強調旬間を年間2回設定し、家庭と連携してカードを使って取り組むと共に、生活改善フォーラムを開催し、親子で課題解決に向けた方策を検討している。
- ②木浦小学校では、メディアコントロールを中心に据えた生活リズム強調週間を年間4回設定し、保護者による日常生活の評価と児童の自己評価を比較しながら、健康管理能力の基盤を育成している。

(3) 学校の意図的な取組

能生小学校では、児童会の「健康づくり委員会」とPTA専門部の「すこやか教育部」、学校の「保健教育部」の3つの組織が同じテーマで取り組んでいる。活動時期を調整することにより、年間を通して児童や家庭が意識して取り組めるようにしている。

4 成果と課題

県の「学校保健推進計画」や市の「子ども一貫教育基本計画」を基に、中学校区を単位として関係機関や保護者、地域と一体となって健康教育を推進することが、課題解決や目標達成に向けた連携意識の高揚につながった。さらに養護教諭の専門性を生かし充実させたい。